

第七表 主要作物耕作反別推移狀態

續
垣
の
話

岸村茂雄

「四ツ目垣の作り方」

私は、前号で「垣」の話をはじめました
が、既に四月号で、重岡先生が生垣について書かれたことを知り、これは先生に対して、大変礼を失したことであり、読者の方

竹選び

二 九		二 八		二 七		二 六		二 五		次年		分區
三	二	三	三	三	二	男				力	稼	
一	一	一	一	一	一	女				働		
一〇〇	〇	一〇〇	〇	一〇〇	〇	薯	馬	鈴				
五〇〇	〇	五〇〇	〇	五〇〇	〇	燕	麦					
八〇〇	〇	八〇〇	〇	八〇〇	〇	豆	類					
三〇〇	〇	三〇〇	〇	三〇〇	〇	裸	麦					
吾〇〇	〇	吾〇〇	〇	吾〇〇	〇	甜	菜					
泰〇〇	〇	泰〇〇	〇	泰〇〇	〇	黍	玉					
蜀〇〇	〇	蜀〇〇	〇	蜀〇〇	〇	蜀						
六〇〇	〇	六〇〇	〇	六〇〇	〇	稗						
空〇〇	〇	空〇〇	〇	空〇〇	〇	ト	デ	ン	コ	ン		作
大〇〇	〇	大〇〇	〇	大〇〇	〇	青	豆	刈				
豆〇〇	〇	豆〇〇	〇	豆〇〇	〇	類	根	菜				
四〇〇	〇	四〇〇	〇	四〇〇	〇	口	赤	バ	ク			物
六〇〇	〇	六〇〇	〇	六〇〇	〇	シ	チ	ミ	モ			
七〇〇	〇	七〇〇	〇	七〇〇	〇	烟	他					
八〇〇	〇	八〇〇	〇	八〇〇	〇	地						
九〇〇	〇	九〇〇	〇	九〇〇	〇	地						
五〇〇	〇	五〇〇	〇	五〇〇	〇	成	牛					
六〇〇	〇	六〇〇	〇	六〇〇	〇	幼	牛					
七〇〇	〇	七〇〇	〇	七〇〇	〇	牛						
八〇〇	〇	八〇〇	〇	八〇〇	〇	牛						
九〇〇	〇	九〇〇	〇	九〇〇	〇	牛						
三〇〇	〇	三〇〇	〇	三〇〇	〇	牛						
二〇〇	〇	二〇〇	〇	二〇〇	〇	牛						
一〇〇	〇	一〇〇	〇	一〇〇	〇	牛						
〇〇〇	〇	〇〇〇	〇	〇〇〇	〇	牛						
三	二	三	三	二	二	二頭						
三	二	一	一	一	一	頭						

根菜類（かぶ）三反歩は裸麦に混作
九表の通りであります。

以上の一 日当給与飼料中のF・Eは「一」。
○九、D・T・Pは「一、三三三三瓦」となり、五五
第八表 五力年間ににおける主要施設並びに

農機具の整備

年次 主要施設並びに農機具整備

二十五年	発動機、脱穀機、除草ハロー
二十六年	動力丸鋸、 ブラン（二頭五分曳）
二十七年	北農式カッターハンブ
二十八年	サイロ（径九尺、高さ二一尺）
二十九年	肥料撒布並びに播種機

第九表 冬季間の餌料給与計画の大要

以上が私の酪農経営五九年計画の概要であり、一応の目標達成を得た成果のあらましでございますが、ここにその実績を発表させていただいた次第でござります。（この記事は第六回北海道酪農青年研究連盟発表大会に高位に入賞された中島孝君が貴重な体験、研究の結果を発表された内容を紹介したものであります。）

書き方があまりに細かすぎる、と、自分でも思わぬではありませんが、四ツ目垣くらいは植木屋の手を借りずに、あなたに作つて頂きたい——と、思うからのことと、触れてみて、はじめて「垣」への愛情もおぼる。二角、こころつづき。

がつく」といつて竹師は嫌います。この寒
は、暦の上の大寒・小寒ですが、この頃に
伐つた竹は、弱くて虫がつきやすく、五年
は持つはずの垣が三年たらずで駄目になり
ます。適期は十一月いつぱい、遅くとも冬
至迄で、庭師は「竹は八月」(旧暦)といつ
ていますが、この月以降に伐つても虫はつ
きませんが、竹が次へで使つてよ。

若い造園家で、将来の庭園を論じても、四
ツ目垣一つ自分で作れない人もいますが、
それでどうして、庭へ愛情が湧くか、と、
私は不思議に思うのです。若い人達が、よ
く恋愛を論じ、女性論を闘わしているのを
聞いて、「やは肌のあつき血潮に触れもみ
で」と、ほほえましい気持になりましたが、
庭も同じことで、実体に触れて、はじめて
その真実が開けてくるというものです。

あるものも避けます。

がつく」といつて竹師は嫌います。この寒は、暦の上の大寒・小寒ですが、この頃に伐つた竹は、弱くて虫がつきやすく、五年は持つはずの垣が三年たらずで駄目になります。適期は十一月いっぱい、遅くとも冬至迄で、庭師は「竹は八月」(旧暦)といっていますが、この月以降に伐つても虫はつきませんが、竹が軟かで使いにくい。竹商から求める場合、十一月に伐つた竹が店頭に出るのは二月か三月頃と考えて、この頃に求めるとよい。それでなかつたら秋にします。五月頃に店頭の竹を良く吟味しますと、黄色い粉を吹いた個所を見ることがあります。これは虫の糞ですから、求めないようにします。又、内側に黒斑のあるものも避けます。

九表の通りであります。
以上の一日當給与飼料中のF.Eは一。
○九、D.T.Pは一二三二瓦となり、五五
第八表 五力年間における主要施設並びに
農機具の整備

九表の通りであります。

○牛の乳牛の維持と脂肪三・三%の牛乳を

日記がひく有りて

セイジ、美の恒平の二本、ギリギリの用

私は、前号で「垣」の話をはじめました
が、既に四月号で、重岡先生が生垣について
て書かれたことを知り、これは先生に対し
て、大変礼を失したことであり、読者の方

「四ツ目垣の作り方」

れも周辺のものではなく、中心部に入つて

行つて、風当りの少ないために真直ぐに育つた、なるべく節の低く、節間の長い二、三年生の竹を選んで伐ります。曲った竹でなく美しく仕上りませんから、火に焼つて真直ぐにします。その年に生えた一年竹は、軟竹といつて、竹師が竹細工の様を巻く場合には使いますが、庭の方ではこれを避けます。

なお、伐る時は鉈などで切口を傷つけるようには伐らないと、筍の出が悪いと言われています。

根元から伐つた竹は、太い方は六尺死に切つて、建仁寺などの他の垣用とし、末口の方を所定の長さに切つて四ツ目垣に使います。この際、節から出ている枝は普通は払いますが、少し残して置いてほしいのです。竹幹の美しさは、節とその芽のところですから、「垣」を作る際にそれを生かしたいのです。

——こうして、竹選びのことを書いていますと、私には、あの京都の桂辻から嵯峨へかけての美しい竹林が、瞼の裏に浮かんできます。余談ですが、竹は、あの藪のようにまとまっているから美しいので、よく料亭で見られるように太い竹が堀にそつて並木のように植えられては、竹の本来の姿ではない。敷地が許されて庭に太い竹を使ふ場合は、少なくとも二十本位寄せ植えてほしい。その中心部の竹は真直ぐに、周辺のものは、風に当つているように少しあり、そして中にやぶ椿の一、二株もあらえれば、竹林の美しさは表現出来た、と

いうものです。

私の、年季を入れはじめの時、お茶の宗匠の庭を掃除に行き、竹林の落葉を手籠です、つきりと掃き清めて、親方から叱られたことがあります。竹林は落葉があるからこそ絵になるのでしよう。叱言の下で、思い出し、しみじみと頭を下げていたものでした。

……（ここ数日、私は床の中で、竹林の竹の葉先から、露の落ちるかすかな音を聴いて、私はきこえてくる。

落葉があるからこそ、露の音はするのだ。身を投げ出してこそ、仏の御言葉を聞くことが出来るのである。

——その音を何時も心の中で味わつていたのだが、今朝は聴くことが出来なかつた。雨戸を練つてみると心ない人によつて、きれいに落葉が掃かれてあつた。

二 四ツ目垣の構造

竹垣で、一番簡単なのが四ツ目垣と建仁寺垣で、しかもこれが他の垣の基準ともな

るもので、この二つの作り方を会得していれば、一般に使う垣でしたら、あとは何とかなるものです。

作りはじめの前に、構造を概説しましょ

う。（一図）

距離 $L \cdot L'$ の両端 $L \cdot L'$ に支柱 $A \cdot A'$, $B \cdot B'$ を、六尺を基準にして等分し、更にこれに、支柱

第一図



